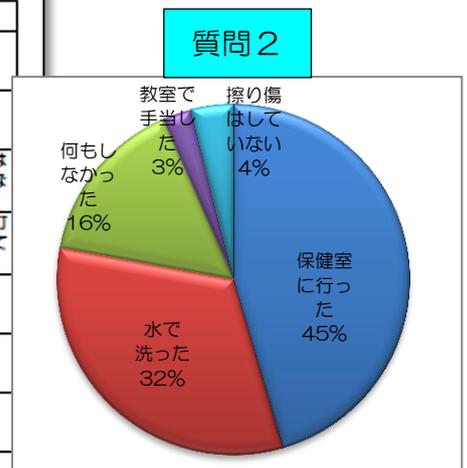


I 実態調査について

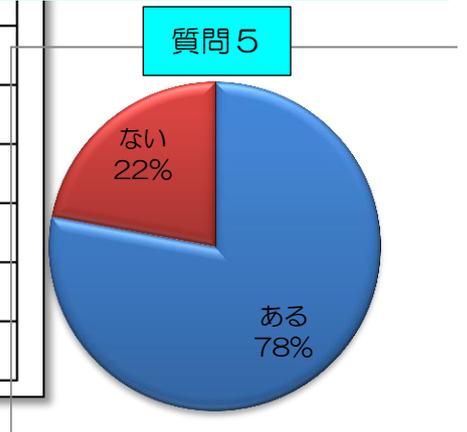
単元に入る前に、学習内容に関する事項について質問紙法を用いて、実態調査を行った。その結果、学校でけがをしたことのある児童は、97.5%いた。学校でけが(擦り傷・捻挫・打撲)をした際には、46%の児童が保健室を利用しており、何もしなかった児童が15%いることが分かった。また、各質問項目間の相互の関係性を見ると、「学校の廊下や階段でのけがの発生の有無と登校中のけがの発生予測の有無」、「登校中のけがの発生の有無とけがの予測有無」、「学校で遊ぶときのけがの発生予測の有無と登校中のけがの発生予測、交通事故の発生予測、犯罪被害遭遇の予測」には相関があることが分かった。

けがの防止に関するアンケート				
5年 ___組 ___番 名前_____				
あてはまるもの1つに○をしてください。				
No.	質問	回答		
1	学校でけがをしたことがありますか。	ある	ない	覚えていない
質問2～6は、「ある」と答えた人のみ、○をしてください。				
2	学校ですり傷のけがをしたときはどのようにしましたか。	保健室に行った	水で洗った	何もしなかった
3	学校でねんざや打撲をしたときはどのようにしましたか。	保健室行った	何もしなかった	覚えていない
4	学校でけがをしたとき、病院へ行き、治りょうを受けたことがありますか。	ある	ない	
5	学校の遊具でけがをしたことがありますか。	ある	ない	
6	学校の廊下や階段でけがをしたことがありますか。	ある	ない	
★ ここからは、全員が答えます。				
7	学校でけがをしそうになったことがありますか。	ある	ない	
8	登校中にけがをしたことがありますか。	ある	ない	
9	登校中にけがをしそうになったことがありますか。	ある	ない	
10	交通事故をしたことがありますか。	ある	ない	
11	交通事故をしそうになったことはありますか。	ある	ない	
12	交通事故を見たことがありますか。	ある	ない	
13	水の事故を起こしそうになったことはありますか。	ある	ない	
14	犯罪のひ害にあいそうになったことはありますか。	ある	ない	
15	学校で遊ぶ時、けがをするかもしれないと思ったことがありますか。	よく思う	時々思う	思わない
16	登校中にけがをするかもしれないと思ったことがありますか。	よく思う	時々思う	思わない
17	交通事故にあうかもしれないと思ったことがありますか。	よく思う	時々思う	思わない
18	犯罪のひ害にあうかもしれないと思ったことがありますか。	よく思う	時々思う	思わない



各質問項目の相互の関係性

相関係数						
	質問6	質問8	質問9	質問15	質問16	質問17
質問6					.411**	
質問8			.609**			
質問9		.609**				
質問15					.605**	.452**
質問16	.411**			.605**		
質問17				.500**	.465**	.541**
質問18				.452**		.541**



## II 授業の実際

### 1 第1次 けがの発生要因や防止方法を考える

#### (1) 事故や犯罪被害の防止方法を話し合う。

A児は、教科書を開いてすぐに、「社会と同じだ」とつぶやいた。このつぶやきは、3・4年社会下の教科書に「防ごう交通事故や事件」の単元があり、警察署の仕組みや取り組みについて既習しているからだと思った。そこで、保健では、交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止の視点から学習していくことを伝え、学習を始めた。

#### ① 授業の流れと板書

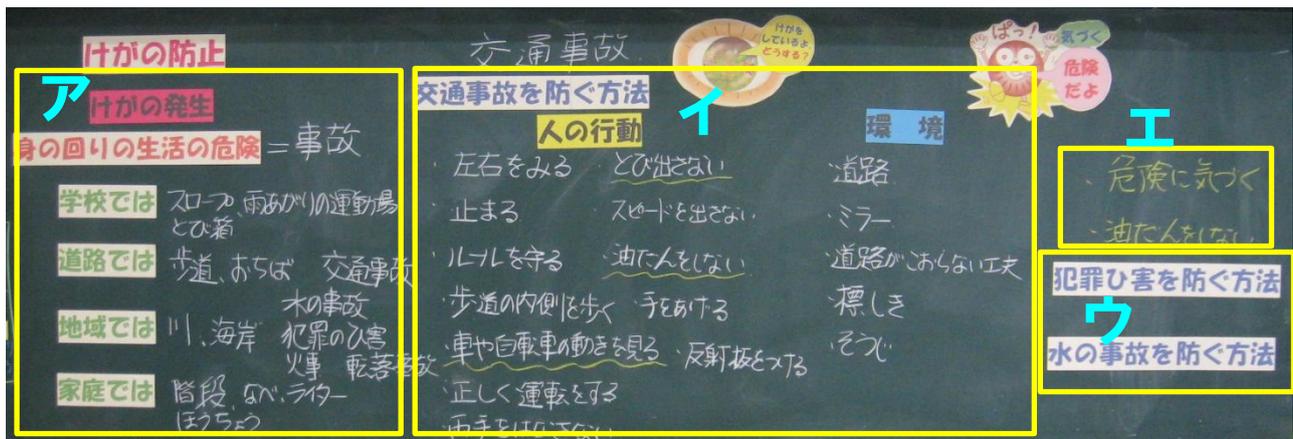
児童は、交通事故を防止する仕組みは社会で学習し、事故や犯罪被害、学校生活でのけがの防止については、全校集会や学級で何度も指導を受け、知識として知っている。そこで、児童のもつ既習事項や経験をもとに、交通事故を防ぐ方法を自分のこととして考えることができるようにした。

これは、その時の板書である。

ア) 身の回りの生活の危険を見付ける。

イ) 交通事故を防ぐ方法を考える。

交通事故が原因でおこるけがは、人の行動や環境が関わって発生していることに気付く。



ウ) 犯罪被害や水の事故を防ぐ方法を既習の交通事故を防ぐ方法を使って見付ける。

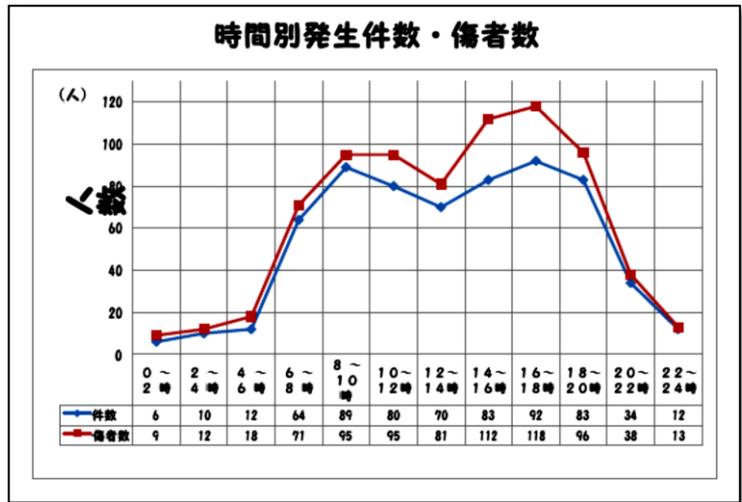
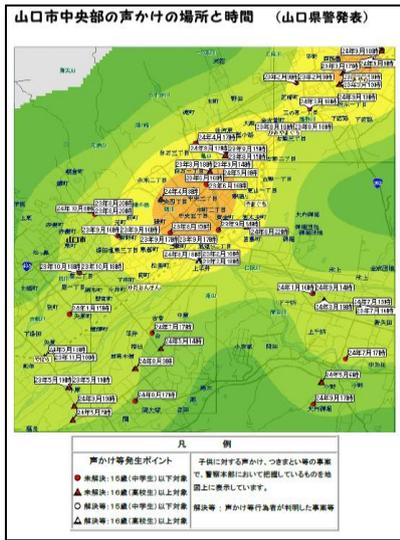
エ) 今日の学習で分かったことを短い文やキーワードで表す。

#### ② 提示した資料



山口市の資料を提示することで、交通事故や声かけが身近で発生していることや、発生しやすい時間帯があることに気付くことができた。

この資料は、山口県警HP、山口警察HPより引用し、作成した。



③ ワークシート

1 交通事故を防ぐ方法を考えて、書きましょう。

飛び出さない  
 ↓  
 ○左右をよく見る・車に注意  
 ○信号をむししなさい  
 ○人車の動きをよく見る  
 自転車バイク

2 犯罪の被害にあわないための方法を考えて、書きましょう。

あがな... 戸先に...  
 あがな... 人に近づかない

3 水の事故にあわないための方法を考えて、書きましょう。

無理をしなさい

4 今日の学習で分かったこと

覚えたり、すぐに使ったりできるように、短い文やキーワードで書きましょう。

きけんというのを早く気づく

理由(どうして、この短い文やキーワードにしたのかについて書きましょう。)

きけん(飛び出す等)を気づいたり安全とつづりのせいが高い

自己評価活動

仲間と共に見出した複数の行動を基に表す

5 友達の意見を聞いて、思ったことや感じたこと

なるほどと思ったことや、いいなと思ったこと、まねをしたいなと思ったことなどを書きましょう。

例: ○○さんの「△△」という意見を聞いて、私は口口だと思いました。それは、...だからです。

夜暗い時、棒にあがらないので  
 反しゃぼんをつけることは大切だと思えました。

相互評価活動

既習事項や生活経験から考える。この考えをもとにして、小グループで話し合う。

④ 考察

A児の「社会と同じ」というつぶやきは、他教科の既習事項を確認しておくことの必要性を改めて感じた一言であった。そして、他教科や特別活動などとの学習内容の類似性を知り、この単元で、児童に何を学んでほしいかということを確認して授業づくりを行うことが大切だと思った。

交通事故や水の事故、犯罪被害の防止については、知識としては周知しているが、実際の行動とのずれが見られる。仲間と経験などを話し合う活動の中で、その知識と行動とのずれを自覚する児童の姿も見られ、仲間と交流することが有効だと感じた。

## (2) 学校生活のけがの防止方法を話し合う①

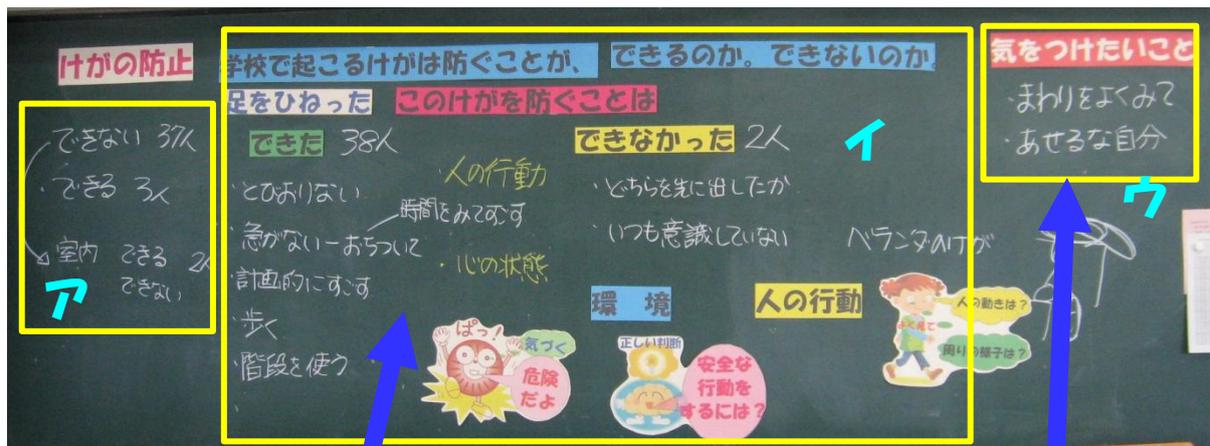
### ① 授業の流れと板書

ア) 校内けが発生マップからけがの発生状況を知り、校内のけがの発生数を減少させることができるのかを考える。

イ) 実際に起こった渡り廊下のけがを事例に、けがの防止を考える。

2時間続きの理科の休み時間に教室に帰りました。4時間目が始まりそうなので、急いでいました。理科室に向かう6年2組前の渡り廊下の階段をとびおりて、左足首をひねりました。少し痛みを感じましたが、そのまま授業を受けました。

ウ) けがを防止するための行動を考える。



### ② ワークシート

けがの予防 ワークシート②  
5年2組 番 前

1 学校で起こるけがは、防ぐことができるのか、できないのか。

昼休みにAさんは、Bさんと話をしながら下運動場から教室に帰ろうとしていました。サッカーの試合をしている人たちの横を通り過ぎようとした時に、サッカーボールが頭に当たりました。すぐにBさんと一緒に保健室に行きました。

このけがは防ぐことが ( ) できた ( ) できなかった  
理由

2時間続きの理科の休み時間に教室に帰りました。4時間目が始まりそうなので、急いでいました。理科室に向かう6年2組前の渡り廊下の階段をとびおりて、左足首をひねりました。少し痛みを感じましたが、そのまま授業を受けました。

このけがは防ぐことが ( ) できた ( ) できなかった  
理由

2 学校でけがをしたときの様子を思い出して書きましょう。  
いつ、学校のどこで、何をしていた、どんなけがをした。  
(その時に場所の様子や天気、心の状態、体の調子なども思い出しましょう。)

このけがは防ぐことが ( ) できた ( ) できなかった  
理由

自己評価活動

仲間と共に見出した複数の行動を基に表す

同じことを繰り返さないために、  
すぐに思い出したり、使ったりできるように、短い文やキーワードを書きましょう。

理由(どうして、この短い文やキーワードにしたのかについて書きましょう。)

4 友達の見聞聞いて、思ったことや感じたこと  
なるほどと思ったことや、いいなと思ったこと、まねをしたいなと思ったことなどを書きましょう。

例: ○○さんの「△△」という意見を聞いて、私は□□だと思いました。それは、・・・だからです。

### 実践力と結びつける活動

児童一人ひとりが、自分の行動を見直し、再発防止の手立てを考える場面である。

### ③ 提示資料

○保健室に掲示してあるけがの発生マップ



けがの発生マップは、常時保健室に掲示してあり、けがをした児童が、保健室で手当を受けたのちに、けがをした場所をシールで貼り、けがの発生場所を示したものである。

青色は低学年、赤色は高学年である。

今回提示したものは、4月から11月中旬までのものである。

### ④ 考察

口頭とワークシートで事例を提示したため、児童一人ひとりが想像する事象が異なった。このことにより、けがを防止する方法よりも事例に疑問をもつ児童がおり、共通した視点でけがの防止を考えることができなかつた。事例を提示する際には、すべての児童が場面を理解できるような提示の方法が必要だと感じた。

#### (3) 学校生活のけがの防止方法を話し合う②

##### ① 授業の流れと板書

ア) 前時のキーワードを提示する。

キーワードから、けがを防止するために必要な

「周囲の状況をよく見る」「危険に気付く」「安全な行動をする」「意識する」の4項目を確認する。

イ) 本時の学習のねらいを示す。

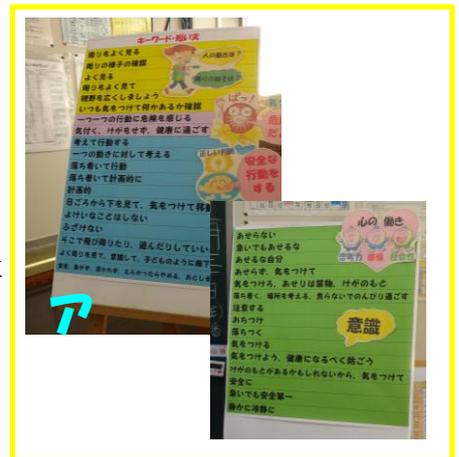
ねらいは、前時に児童が発言した内容から作る。

ウ) 雲梯で遊ぶときのけがの防止を考える。

エ) 他の遊具で遊ぶときのけがの防止を考える。

オ) けがを防止するキーワードを考える。

カ) 本時を振り返る。



<b>けがの防止</b> けがの防止を意識して生活するには、何をやるのか。 ちろつく 危険そうになったらやめる ちろくり行動する		<b>けがを防止するキーワード</b> ・ルールを守る、友達といたるあそび方 ・けがを怖あそびはない 危険と思ったらやめる
<b>雲梯で遊ぶ時のけがの防止</b> けがの種類 骨折 打ぼく すり傷 ねんざ 鼻血 だっきゅう つま指	<b>けがを防ぐためのポイント</b> 時間-あせらない ねない(積になる) まわりをよくみる 雨の時はやらない やっている人をくづさない 危険だと思ったらやめる 着地の仕方工夫する	<b>遊具で遊ぶ時のけがの防止</b> ・ブランコ - へんなたいせいにならない ・すべり台 - おれている時にやらない ・鉄ぼう - しかりとにきる ・のぼりぼう - ちろくりとあいる
危険に気づく 状況を見る 正しい判断 安全な行動	オ エ カ	オ エ

## ② ワークシート

1 雲ていで遊ぶ時のけがの防止について考えましょう。

(1) けがが発生した時の行動とけがの種類  
 例：雲ていのバーを1本飛ばしをして進んでいたときに落ちて、足のひざをすった。  
 おぼろしいがバランスをくずしてひざがへた。 (選手村札幌)

(2) けがの原因  
 けがをする時の行動や雲ていの様子、心の状態など  
 例：だんだんバーがにぎりにくくなったけれど続けていたら、突然手がすべって落ちた。  
 休み時間の残りまであそんで、いいでいいと、いいと書いておいておいておいて。

(3) 安全に遊ぶ方法 (けがを防ぐためのポイント)  
 日時間 を考えてあそぶ

2 雲てい以外の遊具で遊ぶ時のけがの防止について考えましょう。

(1) 遊具の名前：つりきり (おもしろい)

(2) 安全に遊ぶ方法 (けがを防ぐためのポイント)  
 しかりとぼうをにぎらばく

3 けがの防止を考慮して生活するにはどうしたらいいのかについて、  
 覚えたり、すぐに使ったりできるように、短い文やキーワードで書きましょう。

思い出せない

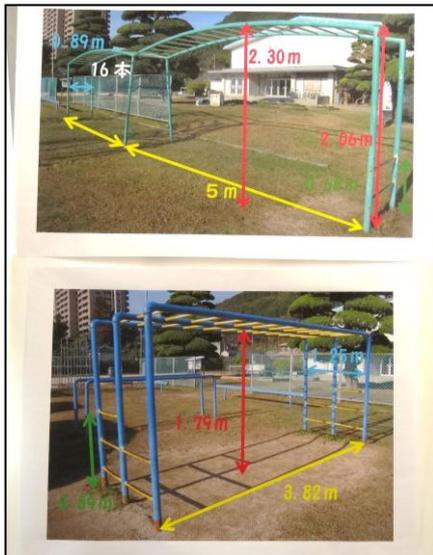
理由 (どうして、この短い文やキーワードにしたのかについて書きましょう。)

ふざけていると遊んでいけなくなりからふざけない

4 友達の意見を聞いて、思ったことや感じたこと  
 なるほどと思ったことや、いいなと思ったこと、まねをしたいなと思ったことなどを書きま  
 しょう。

例：〇〇さんの「△△」という意見を聞いて、私は□□だと思いました。それは、・・・だからです。  
 ...の危険なところや遊具を閉めておくべきかと  
 ...は、ぼくも少し危険なところだと思ってるから

## ③ 提示した資料



本校の遊具の写真を提示した。児童が、この写真を使って、実際に起こったけがの経験を語ることで、誰もが状況を理解しやすくなった。



児童の説明の様子

## ④ 小グループで課題について話し合う (相互評価活動)

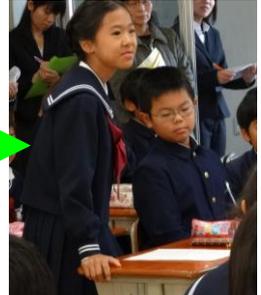
ワークシートに雲梯で遊ぶ時の行動とけがの種類、けがの原因、けがを防ぐためのポイントを一人ひとりが記入した後に、小グループでけがを防ぐためのポイントを話し合った。そうすることで、漠然としていた考えを整理したり、自分の行動の理由や思いを表出したりして、自分に合った具体的な行動を見出すようにした。その後、全体で交流した。



ワークシートに記入する活動



小グループで話し合う活動



全体での交流

### ⑤ 自分に合った行動を短い文やキーワードで表す（自己評価活動）

仲間と共に見出した複数のけがを防止する行動を基に、実践したい自分なりの行動を短い文やキーワードで表す。そうすることで、学習したことを生活の中で活用しやすくしておくようにする。記入後に、全体でも交流した。

3 けがの防止を意識して生活するにはどうしたらいいのかについて、覚えたり、すぐに使ったりできるように、短い文やキーワードで書きましょう。

実際に気づいたらすぐにやる

理由（どうして、この短い文やキーワードにしたのかについて書きましょう。）  
危険を気づいたらやめよう、大抵はけがはつたがってしまいかもしれないから。

C児のワークシートに記入したけがを防止する行動

### ⑥ 仲間の意見を聞いて思ったことを観点に振り返る（自己評価活動）

学習の終末の振り返り活動において、友だちの意見を聞いて思ったことをワークシートに記入したり、発表したりした。そうすることで、自他の生活行動の類似点や相違点に気付いたり、仲間と共に学ぶことの良さを感じたりすることができるようにした。

4 友達の意見を聞いて、思ったことや感じたことなるほど思ったことや、いいなと思ったこと、まねをしたいなと思ったことなどを書きましょう。

例：〇〇さんの「△△」という意見を聞いて、私は□□だと思いました。それは、・・・だからです。

△△さんの意見は、いい意見だと思いましたが、△△さんの意見は、正しい意見だと思いません。

C児のワークシートに記入した友だちの意見を聞いて思ったことや感じたこと

### ⑦ 考察

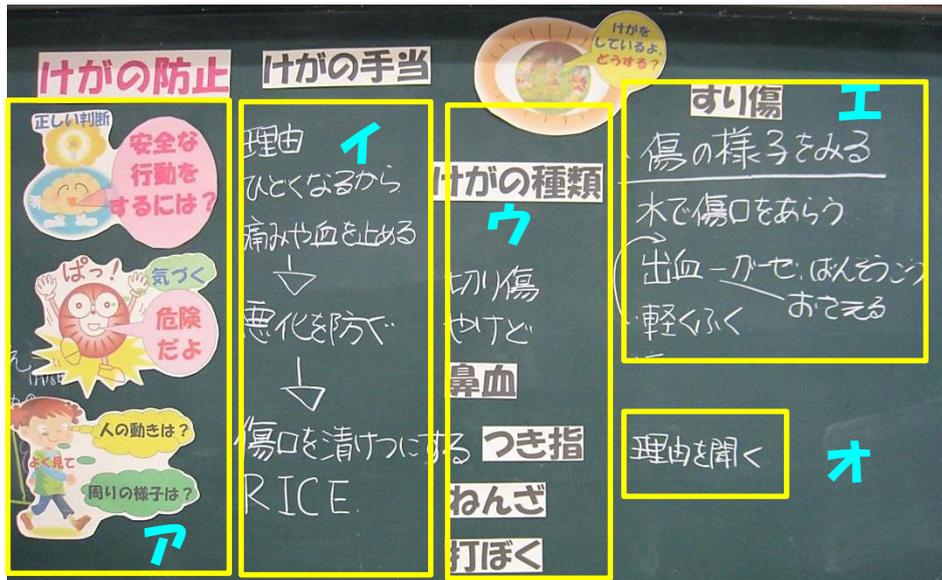
学習の導入の場面で、前時に児童が考えたキーワードを使って、けがの防止のポイントを示したり、本校の雲梯の写真を提示したりすることにより、より身近なこととして学校内のけがの防止を具体的に考えることができたのではないかと思う。

## 2 第2次 けがの簡単な手当ができるようにする

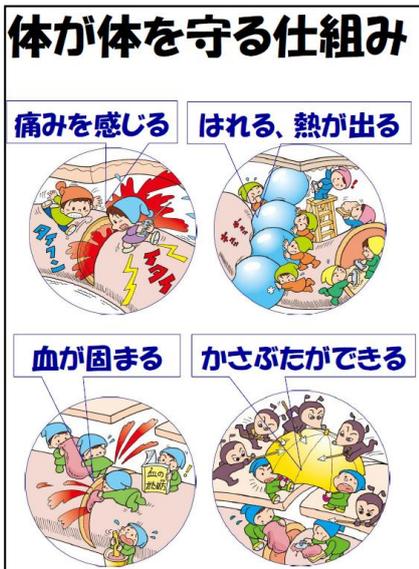
### (1) けがの手当の実習をする。

#### ① 授業の流れと板書

- ア) けがの防止のポイントを振り返る
- イ) けがの手当をする理由を考える
- ウ) けがの手当の基本を提示する。
- エ) けがの手当の基本を使って、手当の仕方を考え、実際に行う。
- オ) けがの手当を受けるときの伝え方を考える。
- カ) けがの手当をする時のキーワードを考える。



② 提示資料



自然治癒力の説明



RICEの説明



鼻血の手当の説明

RICEの説明の際に使用した資料と、けがをした時の伝え方は、保健室の救急処置コーナーの前に常設掲示してあるものを使った。

- この他に提示した資料は、
- ・ 血の止め方
  - ・ やけどの症状と程度
  - ・ けがをした時の伝え方 である。

### ③ ワークシート

1 けがの手当ての仕方考えましょう。  
 (1) どうして、けがをしたときにすぐに手当てをした方がいいのでしょうか。

出血をとめるため  
 けががひどくならないため

(2) すり傷、切り傷、やけど、鼻血、突き指、ねんざ、打撲などのけがをしたときに、どんな順番で、どんな手当てをしたらいでしょうか。その時に、気をつけたいことも考えましょう。

●けがの名前(すり傷) )  
 手当ての順番と手当ての仕方  
 水で洗う  
 できれば消毒を打つ  
 は

気をつけたいこと  
 ばい菌が入らないようにする

●けがの名前(やけど) )  
 手当ての順番と手当ての仕方  
 水で冷やす  
 (ひどければ病院に行く)

気をつけたいこと  
 水で冷やす

3 けがの手当てをする時に意識しておきたいことについて、  
 覚えたり、すぐに使ったりできるように、短い文やキーワードで書きましょう。

RICE

理由(どうして、この短い文やキーワードにしたのかについて書きましょう。)

けがの手当てをりんごあつひにできるから

4 友達の見聞を聞いて、思ったことや感じたこと  
 なるほどと思ったことや、いいなと思ったこと、まねをしたいなと思ったことなどを書きましよう。

ん「△△」という意見を聞いて、私は口元だと思いました。それは・・・だからです。  
 君の意見をきいてあ、それも(ない)といけ  
 ないな)と思いました。

5 けがの防止を学習をして思ったことや感じたことを書きましょう。

ぼくはけががあお、ひて、つねにまわし気を付けたい  
 です、

### ④ 考察

けがの手当てをする際の基本となる「傷口を清潔にする」「RICE」を説明した後に、けがの手当ての仕方考えるようにした。そうすることで、どのようなけがにもすぐに対応できるようにしたいと考えたからである。児童も具体的なけがの手当てを考えていく際に、RICEを使えば、手当てができることを感じていたようである。

鼻血が出たときになぜ、小鼻を押さえるのか、やけどをしたときにすぐに冷やすのはどうしてかについては、理由を説明したことにより、手当てに対する理解が深まったようである。

### 3 本単元の考察と課題

子どもたちは、健康で安全に過ごすための方法について、具体的に「〇〇をしたらいよ」「〇〇もあるよ」というように即答できる複数の情報を知っている。その知っている情報の実践状況について、「知っている〇〇を実際に行っていますか」と問うと「やっているよ」と答え、本人なりに実践していると思っている。そして、多くの子どもたちが、健康で安全な生活を特に意識しなくても、困ることなく、日常生活を送ることができている。しかし、保健室に来室した子どもや学校での生活行動を観察していると、知っている健康や安全に関する情報の実践が形式的になっていたり、けがの発生へとつながる行動をしていたりするのではないかと感じることもある。そこで、保健学習で学んだことを実践化へとつなげる方法として、学習内容をキーワードで表すようにした。そうすることで、保健学習で学んだことを生活の中で活用していきたいという意欲を高めたり、仲間と共に健康で安全に関する知識や経験から複数の生活行動を思案したりしながら、自分に合った具体的な生活行動を見出すことができるようにした。子どもが自分なりに考えたキーワードを生活の中での活用の有無については、今後、担任と連携をしながら調査していくことが大切だと思う。